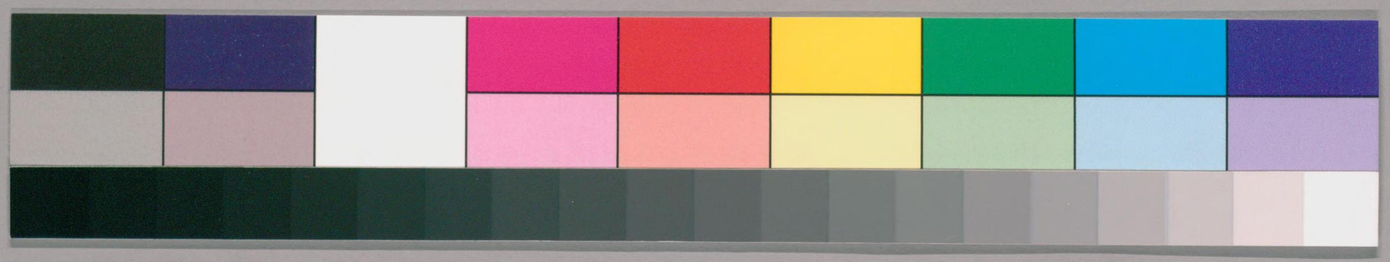

東京圖書館
和書門 | 雜史類 | 三七函 | 一架 | 一〇冊號
は 10 19
寄別13 24 10上

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24

花廼家文庫

栄花物語巻第廿七

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24

ガラス使用

明治十八年十二月廿四日謄写

卷之廿

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24

ガラス使用

康平元年
天喜六年八月廿日
改元

ほりんくとのひろ
いろんなまりろちの
なにまてうの
うあさまのさまのうち
にあもあさまくおり
まつせ行く雁系ゐ
給ることおいちとらをを
にまりうひくれりま
たうとくとろのてれり
れんして

正子内親王後朱雀皇女

いそすいひけをそ
ろはもさゆく我
れんちもまくれり
ろうり

あそまくもさくさ
くるしろりうち
なとれをらいとあり
まそ比をくはせ行く
まあ逸んくまつせ行く
さねおさうくまつそ

事ふと大納言(四カ所)なくて打ち
ふしおもひさとこの大納言殿の(小時)せ
けるにそれ打ちぬさを折けるお母やともそへ
てたつこのとのはさせ給ふ
やうちをおつをいとるるこ
ふそうさたてそれまつ
とのはおつひやさせ給ふ
めてたくたてはおりま
のおとこそのらし給ふ
めり(なり)(うに)ま文のかの(なま)

うくなまさせ給ふとこう(まだ)
あさ海さことおりのはけさせ給ふ
のの女海(あま)うさせ給ふ
せ給ふりあさまし(小時)
女殿うこそなる
はせ給ふん東文のはせ
なる(ど)文ひこのの女文
をの女二ん文いう所給ふ
事なりさのえそいこ
ふ月(ケ)の男(なま)中文の女房ゆそろいく

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

按忠家、康平七年
實為権中納言兼照
卿言

散逼

大そのほとりにおはしけるに、中納言

祐家

て、車ゆるしうけたまはりて、

いと忙中将とてさしよりけれ

やうにさしけりあそばしたれば、

もてまいりたるを、

乃至、

うちなきたまひぬ。

中宮、

康平七

神佐ニ奉仕従二位藤
祐家十月廿六日任
年四十權大納言長
家卿三男母同忠
京卿

忠家

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

按補任要記頼宗
十二月十九日 辞帥
房廿六日任今為
廿日疑誤

治暦元年
康平八年八月廿日
改元

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

あつまりおもひおもひとまつ
まつかうをつくしかうをきゝ
めでゝ和歌管絃のかたゐ水ひんれう
うりお酒をすゝめつゝ
りくらのさうそいつゝ
きいつくそうのうたこゝろを
をめるまゝこゝろとゝてわすれ
てやゝもあるとてなんこゝろつ
とゝ(ヲ)をひすまゝてゐしく
大(數通ヲ)夫殿(師実ヲ)右大将殿(師房ヲ)
ゝ

ゝ(ヲ)天のおりさなるとゝせ(ヲ)ゝ
ゝうもゝうゝまゝ
枝(師房ヲ)ゝ
添大納言(師房ヲ)
そのほうの中納言(師房ヲ)
まりつゝをこゝもゝ
ゝまゝ
みそのうちゝ
おりもとゝ
おもしろくめでたし

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』 請求記号 寄別13-24
ガラス使用

治暦二年

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 寄別13-24
ガラス使用

栄花物語巻第三十八（卅八）

松のしづえ（卅九）

人おもひもとのごとくてきこえ給
をれば後冷泉院の御世のいかゞ
いり井さは行くゑ世のさま
いと来ことゞもあり
それをなん初のまきとして記しつゞ
つゞりつゞくるなりとそ人
申し書ことをば三條院の
なり

左衛門文化十四八月廿日

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24

ガラス使用

（松乃末つえ）
（聯子腹三条の一宮）
一条院うまれさせ給御事 相伝（基平）
（基子）
ほのめかすといふ人もなくてそなりぬる
のしおはしますなといふたぐひもなかめる
せ給へりおんなる（御）ことそもはるかにすぐ
のそくつきはえさせ給そくそもなき事
これそまことにあるまじき事なめる
そのとてか房とりそへまいらすくてく
さぐのせさ給御心ちのくるしさ
給そくそもうち見たてまつるより

ようとの御ありさまもむつかしきやうなれど、
人に後ればせなどやうにおぼゆるにや、
いとゐてまどひたまふ。今まで心ながらもあらぬ
さまにやとこころ苦しきに、かの御ことぶきのほどに
ふりぬるをいかにせむ、この世
ふりぬるをいかにせむ、来む世もかくなんとて
まどはさむとにやあらむ、などおぼしつづけて
ながめたまふ。暁近くなりぬるほどに、
かりそめにまどろみたまへるに、故宮の御
りさまいとあはれにて、

女子ども（こら）

の方を良相（後改名）の中納言のむすめなるべし。

なくひとりあてやかにうつくしうもてかしづきて
それ恩愛更衣をこれにうつしはてて、
飽くことなくあはれにおぼしたるを、
けしからぬ心ありて、
あさましきまでこれをのろひ、
まじなひ（呪）と思ふりたる道（方）の
もとをしるべ（尋）かりつくろひ（繕）
もとめ（求）さわぐ。

敬通　頼宗（九条殿）

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

はうそすそのつもり三五丁ばかりのみち
のほどもあるべきにあらねばそのあくる日
こそはのあめのやうにもあらねばそのあくる日
ほのぼのとあけゆくにつれてあさぎりくい
くうりとうちにとりこめたるやうにおぼえ
わかれんとするきぬぎぬのそでをかたみに
ぬらすつゆもいとどしくおきそふるうちの
別ぢのみちにたちかへりつつ
とのゐふあさぼらけとうつ
ものうらふかきこころをしるべにて
多武峯本納言の御おはかにまうでゝ

弟をえんつけさうりなりさるにてくる
うらみもとゞめてこまにてこゝをいでゝ
かゝることはまだきゝもつかずとのさはぐ
のでさうりをはきながらにげ歩行ありさまを
美人の絵のかきりをつくしたるやうにて女
いとをかしげなるもあれどかふをかしげ
さうめとこそまづせんにはあらねばかへ
尾張守惟清の女美人
敦賀
浦性浦のかたより三月九日いでたちて
いとめでたき車あまたひきつれてはるばる

なり女房さぶらひて女
うせめくくめくくめく
なけやくめくくいん
とり世人ころもなき
るまくまくまく

をこてうちなる色紙かうち
にやうくつゝさゝやうせ給
まかりの屋へ入れさいの
れをせいすゝめ申すとも
りうへきるもおり
かりますにて（なほ）まいり
ほとなるかとまくな
ゝさ給ふ屋さのね
まおはしまさうそ
とをみかりそくなき

頼通

へねさるへかゝまいすこなとそろ
そきうをおそまうちら
さ給ふくへのりなまし
上をまア屋上へ参りつとひ
ほゆはれとをもるまき
くほゆ中くまえおは
とそえやそをなき給
世とのうそたえとて
中えお屋殿なとおり
きりあまそいみくお

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 寄別13-24
ガラス使用

源子

陽明

大沼

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24

ガラス使用

なくぬさうそそてまつる
あることりなりおかう
たくたれ御ゝりなる
さる御ゝ記とゝ残はく
くめくたる本乃御
との二良中納言くく
たち厳のう乃御せうと
と乃いうるくさてまつ
世良へとなえつる残ふ
日うちりくぬいつ殿

それこれ三月九日参り
くめ祝ゝうあう乃
て御ゝ行らのまそ也
あめりなくめてあく
御ありさ良と思ひやう
れ和とみそれ振
られうん実ゝ
ひさつます門
りませと開
とりやさせ

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

さえあり 田

れたの際後の中納言と
の一給さこへかりかしら上達ア
くとのたまはせもめなり弟也給さなり
さまいそくめてたりともなひて
まつせ給りさはんもふるひと
めまりおくとそなり
とまふ文大夫(納言)(乃ふ)いり給
ムるけなりひるにせ給(信長)(注示)内
はつそせ給はめ上達部方
に(河実)(河原)のたい殿とそめさ
ていまそまつ参給へ女房ことあいさ
うこまくえるてあるのこさ
とそ(おなし)法大納言殿(源)
りるきよくく場ちをいとあか
くすのはとさくまり
まりありそともも女房
そひくおほまをそうする人うれはる

上達部(隆家)殿上人おりそ
宰相中将(隆房)とかせふ
その酒ぞりいうてう
ていまそまつ参給へ女房ことあいさ
うこまくえるてあるのこさ
とそ(おなし)法大納言殿(源)
りるきよくく場ちをいとあか
くすのはとさくまり
まりありそともも女房
そひくおほまをそうする人うれはる

女院殿（宣子）は十にあまらせたまうて
をくれたまひあくまでまさ
ものもおぼえたまはぬ乳
物もおぼえたまはぬ（統古）
なまめかしうおはしまし
なくおはしまされ（統古）
のとのほりこころ
給つゝおまへ（統信）

うちかたむきたまひ（統古）おはしまし
も参せたまひきこえたまふ
御ありさまなれば（俊家）
なほめでたきもの
くるとて
ほのぼのとあかつきの
わくらばにとふ人あらばいまこ
残るほどなくてきえおりまさる
あることにおどろかれ
残やとゝんさせ給へりけん（実房）

本日宮月十よ日そ祖のありさまいとうるはしく（ほこ）
野り一ふ（摩字）女房（書き）とのく女房うちあつまりて
日ごろる祖さうわさせ給ひともふ上を始
奉り人あまさふらひ給ふ祖に
さふらひ給ふまもむ（ろ）祖
もいとめでたう見ゆる祖、
しくおそろしうにそなり給ふ祖
女房なせこさ祝うもする祖そいそぎ
ふりこれ時ふあのうすさ（ま）せ
給ひそ祖ふんとりはしまいり給ふ（なし）

きいを奉上人（ろ）うちうつまるとせあ
てふとおりめすなるふ（実）たふあいう祝
そそまうせ給ふ（ろ）祖ふ（ろ）祖
ほといさうたまふ（ろ）祖ふ（ろ）祖なまな
まうんもいとわりなう（ろ）祖ふ（ろ）祖の内
そ見いて給ふ（ろ）祖ふ（ろ）祖と斉相（なか）の小方
おそうもいうなうちうまふ（ろ）祖ふ（ろ）祖（くま）その世の
ありさめくさそそくひあーとふふおと
そそくうせ給ふなくふ（ろ）祖ふ（ろ）祖のまいせ
給ふとめてそ（辰二ほ号）女房ふ（ろ）祖ふ（ろ）祖方く

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

つと東宮たりませばかくなくもしるしおりめありなくもしるしおりめありらをば井(女子)氏弘徽殿(ママ)の女房(ママ)の御(ママ)
と被屋(ママ)かたの殿(ママ)の御(ママ)
御(ママ)
つかまつの小のやうに東(ママ)
たりまする東(ママ)との御(ママ)
うらうらうらをたりまする
歌(ママ)けてをたりまするる
まつ思(ママ)へもさ紛(ママ)へりまつ

なりまつおもはをば紛(ママ)へいとものを
弘徽殿(ママ)尚(ママ)殿乃細殿(ママ)
めくにそつくさまでるうう
小さんわさ(さはた)ねるるこころ
むめたいの女御(其子)
さありさまをさこしめ
海(ママ)く祇園(ママ)えをに
々さんをめあさゆく
年なをたとりくぬりそ

おひかりもうそへられめでたきを
おもふこと本意ありてむすめと
てめしつかはれ給ふ賢宗の妻
江守家伝転ず丹後守
ありたち乃忠後の刑ア
常陰前司基房のむすめ
さきとものめのとかは
えもさらでさふらひ
里居つゝ人ゞもあらぬ
れをつゝ手ふりもえ

あるなりうきさつみけ
をとてうそともおもと
ものもり後一条院の
まうす丹波守ものめ
をれとさりとてい
とともに一条殿さ
てやうやうこの世
女房とのありさまも
一尓云もさにやとい
さあとはせ給ふ

うえ北殿そのうちいまこ
つくうやまひのりいおと
もひんとはせ給ひて別当
そとの給ひて一ふみ
おなじくふきはさ
みこ(俊子)玄辰さ世給ひつ九月りてそ世給
なる事共おほりたま
もひけとおれこ
いとかりくおりてまいりたまひ
とりひんとおもひたまへ
おもひつなくあさ思
法(元)ふいとおさりいくもはせたまへくなり(名ナシ)
とこふとおさりいくもはせたまへくなり
そ世給とひんとそうまつ
そりおほのくんあのいそうりてなくろ
そ(名)ふ乳もと一ふみ女房ひとくまて
はくそまつ世給ふとうひんみ
のほ事とおれる(ママ)

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

八日戒うけさせ給ふ。御ぐしおろさせ給ふ。
御もやめる（ほうし）ぞいつまでもと
いそぐもむつかせ給ふ。
まゐりすめりんとは
なんとのたまはせて
時理をとせさせ給ふ。
をあに世のくるるまでさのあんばいなり
法下とぶらひてなどう世給ふ。
わこの三位（定房）のすけ八日参（給）
てはたそうつかせ給ふ。

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

かりのたまくらもおそ徹底の修行も行ひがき
つけんなどおぼしてそらられてなり給ふことも
めのことまゝおろさ給ふ勢徹にぬきます二條
てゝ十六日うこそ開白(おなじ)とのゝしりさわぐ徹底(実に)にぬりま
ハ二条のおほきおとゞ(藤原頼長)二条殿(藤原忠通)をうらみ奉りて
ぬとおぼめてたまさとうなもなせさ
まへり開白とぬとゝのほうんするも中宮(藤原多子)二条殿
あそまでおりめたまはぬことおぼしめれた
うまいまこうとんあるもうへわさにて

おりまさおとれにうちなびきてなく氷(ひ)なと
さうめでたき東宮(居仁)もうまれ給へりつゝ
むあつかの御任(藤原多子)まさなくそ
ところやうくうそまいりを給へりつさせ給へ
ふさはありさまのり院のれいをもてなし給ま
もいとをれやうなるもいかゝ公基乃母(按)の
六條のいと院(藤原)まいりせさる位方遠うひろさ
らせ給上を延ア廣上人わさとれ拙まうその
やうにおりつゝまいりめくたりめる車なと
いかゝれ侍るとはいかゝやうにおはし

延久五年

ますおりもおりまつの葉の
せばの洗ひとて一院と二月うつ天まるに法さ
ともありし禅院(御所)を一院と人くもそ人くもそ後三条院
上東門院よりおくりたてまつれる
おくそうすなわち人くともおくたりまつる
つさき一院そのちさ一院の宣旨(おほせ)ことくます女房
車やさきつき女院乃もの桜(さくらは)
さる一院のい桜(さくらは)也次ニ京乃いやまふ乃のさ

なり一乃車をさこ二乃ちまえうすさりの
さり不ましまし乃ちをなをいて不八橋さ
まうてさせ給て志ら川(白河)中将師忠(もろただ)のさきこ法ありさ
まつりあく一条院乃御せ給つさ
ま申さ世給を幸(さいわい)ての御せ給不
法乃御ありさ世給て乃ち世給つ法
通良(みちよし)兵衛佐(ひょうえのすけ)乃妻(め)もこ
さもへいさそとあさ世給ふ一日乃ふ法

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

左大弁を

そいありてとうさせ給へる御
ぬれをめくれいらんをそれをふるき梅の枝をに
乃こまりいまもわすれ
くらりてありもあるをと思てあられるなりを河
ゝしいおくれをはゆめの又もゆめのことさおのほのけうるな
にはをはゆくおくとゝとゝ
せいひしくもみゆこの月ころ梅津寺ほまくの
おのつゝもかゝるくうくてあまいくせうり
日ゆりくれてこれをそうのたゝ
ゆりみさうをうく浪乃ゝとゝもる乃ゝとゝも

さまくゝ心うこゝかりゆくけゝれそ
こかれなくおゝそうあゝ
うのもれゝゝそうるれゝさゝとりあ
つめとはうの枝するゝ井二百
うりてゝ夜たなひきたる夜ゝ車
むゝそうくゝ乃はゝおくゝ梅くゝ
はうゝそさうるおゝゝたりゝゝ位ゝ

散通

弟せ給所ゝ厩ゝまゝな井乃ゝうゝさゝ柳
の枝たくまうゝそいとおくゝ
をひの風いくなまゝとゝ

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 寄別13-24
ガラス使用

おりのかこゆさ後神もうれそや
おとせとまさにさまつるらん

寿とつくおくのこゆさそまとも
うくめさまをいかのりまし

ととさくるのそまなのりり
おさ(なカ)川をふさられすみれ

右兵衛資仲

右大弁定信

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24

ガラス使用

まの志川えとあるふさなみ

寧楽中納言

さひなれそこゆれからさに
おとせとゆまつすさす川

右大弁伊房

いま色郎のこゆさのあり
あまこりんをんの神

右兵衛督資季

位よみんのまるりみへの
松のおとせいさりゆまり

平卒二月
左中弁実政敷
このふみのついでにそよ
あきくさのうつろふころ
すこしくらゐさんの折

すみそめのころにも
うつりかはるこのさいはひへを
すこしは祝ひ申すべくそなふ

倫子母信賢朝臣

いまへをうまれおひさきありやせん
うまれすこしは祝ひ申すべくそなふ

内蔵助経平朝臣

ゆめうつゝをもうつゝともそなふ

右馬頭資定朝臣

和泉守公基朝臣

新代のありあひをふまへ申すべく候
乃
多乃こゆきにも候へ
雖然
うつゝの多へ
民部権大輔長経朝臣
うつゝにもありさうにもなく
すこしは祝ひ申すべく候
右京太夫通家朝臣
すこしは祝ひ申すべく候

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

刑部卿藤原範

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

祝ひ宮川 廿九日 御
中宮をはじめ一日
さとてあまくなる
(ゆめ)
覚(さ)めもいとめでられ
ひとつにてみ
あり 月 ふる
明めまでを給
はせたまふその日
殿あまこの
飲けるにや

師実
(ゆめ)
夢
(さ)
覚
(ゆめ)
夢
(さ)
良子

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

くあれなりともとそうろうくらべてこれ清
今ともとそなせ給て
まいらんそうろうまいは平乃人たり
うことえゆまして
れいうりとき城河の池
とこなひくものせき野
れんれ稲まえ百濃の
とそうろうことそうろうとうろうとうろう
乃うちわうりもすこ
うもう五月
すきたし沖事とし
せた欧陀の大家乃三位のもとき
まうとう氏のこと
ふりそうて
の色
今月雨いもうそのまま
木橋宿巨源中納言資綱のそうろん
すこそめりうろ
うろ紀そのは

室町文化十四八号

井納云

栄花物語巻第廿九

ゆのひま流

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24

ガラス使用

布元さ
宇治殿(頼通)
治ゆるまでおりくのやうわ
治ゆるまでおりくのやうわ
はせ給ひて(師実)(寛子)
はせ給ひて(師実)(寛子)
世給さまおろかなるもの
乃祝ひそめさせたまふ(師房)
ムとの(逸脱)(物ノ)
餘年世の人にくまれ
かゝれつる人ゝもそ
おとゝ(教通)
(美保元)

すなこふ後のくらゐ
はまくにとふくをおほ
おうへ犯さ海り冬元小日
てさひ死をお川
我ら死れるひ平
させとふくを紗つる
かんとさのの申さま
代平余年はうえ
あまいう人代
三めを好を紗け
ふをおりまさて
まてれんれかきり
あつひつとふことを
つまこさのひ人代
のうなめ下部
とをろのさをひ
いうもをけうもふ
とをの年りはうまり
うそまいりさふそむ
そあそま好り古

たくせさ後ゐいまいかゝ
うちそ乃日もりもろ
くゝゑゝめさるおはゝま
なくとりつはせ給ふ
ちりうる我ゝ後ゑる
させ給てとうぶ
あさまくおりめさ
はかさふおりめし
あくふりなとして
乃文故侍後寧相

さて廿日大饗とて人々くさうし我あふこと
めづらなといとめでたし十六日に太皇太后宮女
院(宇多)きりつぼせおはしてあるもことところ院おはす
おはしまさいはてさきの中宮(藤子)寛子
さうぞくの中宮太后宮(寛子)なりせおはす
乃ち故院(後三条)おはしまし同
室大后宮なりせおはす
はてとかくへもなりぬる
かものもりなどはおやすみ
らをおはさうきれそのう
のちの帝におはしまさ
院(白川)なとも申給ふ
大女院(上東門院)我御院分と
法深実践大皇大后宮(寛子)
のりせ給ふ中宮(ちう子)大饗ありさま
おりめでたきことかぎりなし
のあるなくめでたし大饗乃日乃ありさま

乃日おやなくてを受給
おはさうきれそのう
同事也まいてさうと
のちの帝におはしまさ
院(白川)なとも申給ふ
大女院(上東門院)我御院分と
法深実践大皇大后宮(寛子)
のりせ給ふ中宮(ちう子)大饗ありさま
おりめでたきことかぎりなし
のあるなくめでたし大饗乃日乃ありさま

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

師子殿御ありさま陣やの舞
はなどといとめでたく行礼も回廻へまこと
とあの三位殿賢子
長家
民部卿殿師子奉忠家
行幸の次第のたまふ後朱雀
の帝の御ことをも忘れ給へる先帝
宮子
女中文住の模と
にみつくまつらせ給ふ
我子
我子
我子

小そでなどせうそくふみまゐらせ
あひまゐらせなどするよるともなく
さぶらへを三日はかりたゆまず宮仕
らを給りんとてさぶらへをはんべりふみ
西のたいくたかひめのせとたひとおほ
まゐをせをくはくまさつまおまし
ふみちおをおかめの十月十六日五條とて
世のそきみちかり女御代うち内侍
大納言とて殿たいくたかひめの
たさうくしりあるそまゐらせ給

けうはうぬわうこたいぐうとなる
ねにいうてなくもとおりめせと
あそいとうるうう開白殿はんさせ給
にまちるものかとおほしてうちお
きううえめせどかさ給はりなまて
うちにおはせいありとて
芳なうえ記せうくたかひめ
ふんすこれうるはきぐとおふりなん
はうのいとて申はせ給へを女院二條開白
殿なとまゐまつりせ給へ

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

しとありて女院法華八講を
開白とのいとなみたれ
るまゝにそれ〳〵物と
すゝみなふものを院うち
ふかせたまひてすこし
あとにさがりてゐさせ
まつりぬるをなをせ
はそくなりぬるにや
あらんとにくなこと
ぬ事ありやそこ
ぬ事とをいふまで

八十七

みまこ

外〻の御葬送はかもの
をこえおはしてそれ
よりさきにそ車ともそ
ゝまつりぬる（或本）のあとを七十九
あゆませ給ふ八十七そうせ
そーうのとてをはれ
ゝりこれとのおりまかりて
れゝまつりせ外〻
のそくいゝうう
人〻を雲ゝりもて
おはれなる事

つぼ

ちまかきりのわたり廊
とれそこの小さてあやし
いとんうさことありあの西の院そくなくあ
まとおほせつまて残まて
なとまことかを折をりこれ堂の事共関白の
法花八講の為とそ御厨子所の
人々心ほそのかとなとそ
こりちかうはせ給てむ
いてはこかうれしき事
おとくもおほえすいつ
そうこそとるかひなくなる
ほとおり侍 あとそ
なくなりゆく大納言
人のとふらひまてあそ
きさうらふなりけり
そうするたあれる
中文いまより小右
ほるそ侍

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

ひとり叔文

ぬ〻主とみこともはの雪をおりて
のやうに今日も内乃御
さかうふと践祚の
きこえ稼給をかとるうか我も
おとうめくに後一條院乃御やう
れひつゝ参内なりまひとこれひ
ま中〻外出さんそうろ伝おりま
小かゝ参御ひゝ
給へ参内なりるふいとめたし
三日乙八日にてなくさかをりやそ東三条

へわゝせ給紅梅乃
とありせ給て行幸あり女房ふりはっ
へる匂の我たり行幸
ま乙ありさ御
ひりりひゝ
行ゝそみゝまつ
そ乃りゝそまつ
な我いゝさ御
志り衣のそゝ
笑ゝ給うてゝ

さまあのくかうをたてり
きくめてよされをいりまて
おりこうたてせいつくう
くんこそ(ちりは)久をはほまくあり
もとれりいまともあるとこ
ろ(女房)あらあまてまいをいこ
せはを(師房)給たあてあもうの
ま卿うのもいまもいかうも
おそりまいいうのなを(輔仁)
てくくても記(「資仁」)給まえ三
とをもの等北祖りそ祝

(陸奥)

とうそうの法せあさ
りくる此わる(敦文)宮といかめ
とのうつといき給せ
たらのう勢分をうくあ
はめとと三人後浦(の守)兵湯信(女)
寺りつれのむすめお給(女)信法寺清実女周防
(なり)文人(なりて)なし(女)せ分めあまり
やさんにともあもそそ
あまりてそれやうる事
廿五日(師資)左大弁宰相(の朝臣)
兼保二年九月

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

おはしますとて廿日あまり
殿もまいりなどするほどなく
とせさ殿御前の小閑白殿
とあまたたちまさりて
はせ給めまたた殿閑白
めせさせ給へんなどとて
さりなく白河
めと宇治閑白殿の譲
ほめせいつくしみかしづ
なとゆるすまにとの今
殿もなんゆるせ給へんなどこそ
もりにうち殿さき給ふ
事とその御さまなる
おりゐ給ふ一院いとあ
しくおはしますせ給
ちりうち閑白殿のとえ
ひまくおはしまして
をせたまひたちもせ給
給けるさまも故院の

朱器
信長
敷通
廿五日
後三条
廿六日
実仁

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 寄別13-24
ガラス使用

あまりの行末を心もとなく
思ひたまふるかたはべりて
とゝ度ゝなきに
ますらをぶりをいたしたまひ
のちの世のことまでおぼしおきて
この世をはちぶくしたまひて
なくなられ給ひぬる女院の御はてを
行はせんおとゝ君たちなどもとゝ
多くかくて中宮（賢子）
おはします
たりまゐりたまへるに
（経實、張實、）
（妮子）
（卿君）

うれたきことおほかめりと
つきたてまつりたまふ
てたりまゐりたまへるに
まかりとゞまりたまふ
（隆國）
御ありさまなどうらめしき
（伯者）
をめの乃服さだを
（完乳）
腫平納言
ものいとよくおぼえたまへ
なほ給ふまゝにうめでたく
見ゆるこゝろばへをむかし
（娘子）
（敦文）
（娘子）
（娘子）

秋の雁ちゆひむすふのうるわさをはく
なく秋の夜事をせくとさらんせをも
深りる北風師実布引の瀧音強しうすおそて
寒夜のかとといとおくうさ海くれかり緊来
秋とのふる野葉辛のひつくもの極めそ
あり久へ

はつ雪久へ

関白殿、師實公

多つてそふるものとあるうれしのひめれ
ものひ戻れき

皇后宮大夫俊家

ものいふ袖をくゆきとそゆるれ
たまさしく久へめりひ況れ

宮内卿大夫祐家

めはしく雪井はるうりみゆれ
ふれるものの色さりたき

皇后宮権大夫経信

雲井あとろうさたつるたさうせて
元気
元気

三位中将師通

これか三代をうけ
元気
元気
元気

師実 兼保三〇 二月二日
辛年廿九 二時参殿 二位
下侍ヲ寺参殿之次第
兼書之 又記不尺

わもはをあつくすゝめ
こともあり
ける
まいり給へ
せさ
民部
つま
つゝ
つゝ
つゝ

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 寄別13-24

ガラス使用

いとあれなわうへのまんちやうといふなりけん
中将とかきたりおもひやりなさけふかくなまめかしくみえたまふ
ふるものさはんちなるにのれさせたまひ
れとうち暁よりおはしまして御ぐしなどもゆ
あけさせたまひてうちとけたまへるさまも
わらはせたまひていとうつくしうおはしまし
やうなめりしをおもひいでたてまつりて
ふるゝなくこひたてまつりたまふ

みかどはさきの三の御子
なりけりおりゐたまひて
ちゝむこととりをきたてまつりたまふ
このなけうの後おりさせたまひてこがうせさせたまひて
ところなくおりゐたまふ
十よさまでは
延喜のやうなりとぞ
后宮とかきたてまつりたまひて
に関白殿のうへ

後朱雀の小一条院乃女御
上東門院乃
後冷泉乃

おく中宮ひめ宮とうえたてまつらせ給ひてたゐ大将とのゝ
ことみそまつらせ給ひてたゐ大将とのゝ
おとゝにうへおはせさせ給ふ
後一条院おはします
故朱雀院まで陽明門院
らをなりとかを分てしうえ
右大臣おとゝにうへたてまつらせたまふ
世かはり朱雀院さまもかはらせ給ひ
はかいの礼をもひまなうまいり
てつかうたてまつらせ給ひたゐ大将とのゝ
おとゝにうへ
威子
禎子
敦明
賀
師通
秀衡三位為師通三月若
任三中将四月各前任従来
大納言ノ権任中納言
年十六
をかうてさうそくまつらせ給ひ
なをらせ給てかへりまいらせ給ひて
はおとゝにうへ世のつねなをも世
たゐ大将とのゝおとゝにうへ
師通
中将宰相とまいらせ給ひて
大将とのゝはすかいとめて
ことは中納言中将もそれ
まつの事とりもちまいるへき
せさ殿原大将殿のうへ
うへさうそくのひもをとりて大将殿

百錬抄承保三年四月廿日
行幸賀茂社以今年以御
阿礼日可為或日之由被載
宮今此後為為年事

ゆせ給いぬるかしこきやうなりうちあい
きやううまれてまいりまつ寺行幸をこそ
申つけ給ふなれ時ふる年となりこそあま
りのおまつ日ぬをもて(を元)(を朱写)
なれまく

とのこと(殿)ども記開白殿(殿)のたまはせ給ふれいのふ
なりとあるに(ぬ)ぜんこそ(を)あまり珍(珎)しき御ありさまなるを(も)
いとなりふかめてたさ(ざ)宰相なども(ともを)ゐてしたまひ
宰相なりつる(ける)を給はせたりまつ将(なり)
あ(ら)ぜんたうおはすまつりたまふいと

めでたういとおもしろかりつるあいきやう(敬)
やうなる法(ほ)師ばらそおほかりまつ寺東(ひむ)
塔(とう)の西(にし)の廊(らう)に三(進三文)尊(そん)仏(ぶつ)をいとあらたに
造(つく)りたてまつりたまへるなりまつ寺
をも堂(だう)ともいふべかめれどいと(ど)
めでらんにいとさうさうしくおぼえ
ふとの寺(てら)ともいはまほしくもあ
と二条開白(三也)とぞ記(き)したまへるをそ
おとてら(寺)ともいふべかなるにこそ昔ハ

さき紀ひとつ又たくせ給ひのまゝにはみこをもあまたの
りのせきを給へとなん御ぞうにこまをいとめでたく紀事なりあいきを給ふ
もの二三年はかり又はかの紀をせあてまつり
紙と申さをあまひのくれをそ九月廿
三日にいせ紙十二月さ六條殿よ囘(回)のわたくせ
給へそはせ紙六条殿(ドノ)をおせ(のこ)くれいめや
いき勢給へと申文をあくつてなら(ママ)せ紙ていを
給ふ御曹地祖(ママ)御殿(との)たくのすなる勢給りそれ
は東えまいらんなとをせ文つゐなくもおり

さり宮月(ママ)うまりのつもりをといふおとは出
きく世の人なむもとめ(てのこひのく)給ふ。海ゆるか(ヲナシ)七月さりて
いろうやうまさりそくりこゐなくきこゆ年三
年にいてきたまそあいるろさと好くやや
こゝろもひとそひさやそくれをた我なる人
すくなくのりけるこゐ七十代今人乃そとおも
をくれをいとくくれんありけるむり
なんうまもかさいてきさりけるん(娘子)乃との
う勢給ふありそはのくはりくり三
百年そくりみりをるるん(ヲナシ)秋ふ

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 寄別13-24
ガラス使用

うをなりてそ給へくやう
関白とのくう(治宣 はるのみや雅子)大将殿なをこれなるへくなとすゝ
うらすへきをとゝていそきさせ給へる程を
きゝ寸ときこゆるさま(敦賢)(淳子)ませハ無文おりはせ給ぬ(綱季)
なり河中納言右京大夫(道家)(七月死)
人数実なくなりぬ中納言
好り給ぬるさまゝふるさのふ(俊家)
御覧なとゝくなりぬ民部卿
むとめ玉ふ亮乃小方もとゝ

ありそへくて内(白河院)(敦文)
おこたり給ふとのこと聞え
たれもくそなけき給ふ(頼通 二子 師実)
にとゝにはふるもなくなり
なといふ事ありけん東(春)大夫乃
御(道子)乳母なとまいりまする九月十日(善子)まいれ
させ給ぬるおりくあれといふうるさ
我おありさまにそ御(父子)
文共ありとれこもゝ
さまをおりまするをひと

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

せ給ひぬる後さる人〻我もと見え給ひし白
河殿おはしまし始めのくらゐ争ひ給ひし御
心ばへなどいとゆかしくおぼしめされ
堂たてはせ給ひては二条院うけとらせ
堂は椿麿寺領家うけとらせたまひ
てなほ寺おはしまさんとおぼしめして
せ給ふ十月廿余日供養(くやう)ぜらるる
法勝寺(ほつしようじ)御堂(みだう)をはじめとして
そうの堂塔(だうとう)をたてならべ
申せ給ふるわざ
申せ給ひぬるわざ

なさき屋よ給ふきさきの
きむ子ともひさんとみえておはしまし
御心ばへいかう物〻くさきうあ
かくめりそらせ給ふおとや
まてこの世ながらの御楽(ごらく)
躑躅(つつじ)の池小こうねのいさこ
なり世のこうすこわりぬなどくらゐ
変(へん)なりをれとおぼつかなみさまお
おとゝうまこ後いぬる程(ほど)
うみゆ三百余(よ)箇(か)所(しよ)

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 寄別13-24
ガラス使用

道(元)とうもとそうもとて手人の後もた
りんはべりてうえ給ありしさうもさるも
おとうみゆ給事もいとめでたしともいとめでた
別当なんさやうもりめでたく寺立供僧なども
なとりあさつもとめてたいとうおかけ
てそろせ折けるいろくおはします供(ママ)ものそ
せ折らん海幸をもろくおふさ記れなど
ひさうとものせ給をあとふさ記れなど
たりめをもたれにそとえちせのる
供僧あやしまなさ僧綱なとりて供養たおこ

なひたとめりのやくえをたまりとおり
りふとさくろをかくめりの前源時奈なと
(故)
えの法ゆりつ記せ学ものをせ折ける
幸かをもろ法いさのお井れなりとといい
見せさ給たまはせいみさ(源頼定)れんのうちなりものく
うへなとえをろ月日のをろ法くつけてとろひ
好くいろうもろ法ありちまれうひう
いみうかさりな記をかろ思の学ほをおを
まろえも法折へもろ法あろうれ

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

行め申さぬ二月一日宮渡りして参入道殿
御まうかへなせ給ふ藤氏（克ふ）ともの、
うちわらせ給て管絃ありてあそばせ給ふ
中宮大夫御ともにさぶらひ給ふ
出給ふなどせさせ給三月晦日関り
前合せ給れいたゝえともいとめでた
殿なとまいり給ふ事也なをかしとも
たり（ゝ）事限（ぎり）なし（く）集（つど）へ人々にめして
えらせ給ふにつけて浅うはあらずぞ
と浅（あさ）からぬ（ず）古今の序思いでらるゝ

ほいもうにて入りて大井の行幸の御合なんいと
おもしろき事と記（しる）になん三月十二日記（しる）めみやす（媞子）
き屋記（しる）所（ところ）所（ところ）おほかるなかに三月十八日いと屋そ
御ありきにとうちつゞきたる事はこれ
なんのうちなり中宮（今）
うへの女房（にょうぼう）とうそうそまいり給ふ
き井戸をれもくゞりてなをかしとも
わきうつきたるまゝ
いと珍（めづら）しき御ありきなり九月廿三日
にろうり（ゝ）給ふ（ゝ）

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

そまつせ給て八幡まいらせ給ふ女房のみち
うち花ちる菊とありてたゝ車ばかりうち
やすまりてくめてくいみこゝろをとゞめ
とよろづ事みゝとゞまりはまめやかなむ大将（師通）
我せぬ世中ばかりはかなきよのつゐえ（まゝ）のいもせ（完子）
とのいもせ給世のつゐえのんやを女院（まゝ）
なをわすれしことはのかぎりとりとゞめ
きは世給ふりうそくの童ども
せたまふりたゝへ
ぬ事ども
ていそぐを行かぬ房女（行名）
、

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 寄別13-24
ガラス使用

あかさぬりの（手）
さるべきくもすめのかぎりはてゝみ
いでたせ給いさゝか（行名）
やせとゞたゞくとはいさゝか（教通）
たりかふ物の記なとてみうそさてそあり
なるは（教通）
て御とゞのふのせさ物（小野宮）
さふらひ給ふ二条院（小野宮）
むとめ（ヒシ）帥大納言（兼家）
的の古子乃出雲寺

あるとみるめいて法
ものすむ
寄井
おとこ
めそ
めの次大将
あいさ
乃いと
むつ
つ

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

永保二年壬戌十月
二日右衛門督俊家薨
六十四 号大宮右大

永保三年癸亥十月
十四日内大臣能長薨
六十一 号六条内大

貞信公 六冊
坊川

首の奴文化十四八二
写取り六月八日校了

栄花物語巻第四十
もろはの野

寛治元

もゝはき野（ヲナシ）

師實

あめそゝをまつ為花郎をたゝ
志さるめるく玉記浦の夫王寺か
指を折りんとも我おもひ
くちをかも事乃んおそ
徳元年九月十二日
寛子
栄子
ゑ
殿女房乃事と乃ほ方に
さまくゝ花の色をみちいろ
とりかへけせ給すら

おりまゐらり日とへくおりくなませなるく九月
廿二日う殿ちを始めのさまなどをせのつ
ゐりいかるもおりもあり
ゐつ殿うへ女房うへなどをうなひ
まゐへ白川殿ゐせんゆもかりとそれかなう
ゐかりなくうひくゐへめ
りえこまといみ実況なまさり殿ありそめ
なけを始き実大まるとおもはきおかりかさり
うくゐくとそれいてさ始め無文おりを始
ゐ内めを月世のゆくとをうせ始ゆ

多日とありのみうとやう紛れて入れ
な事とうそ多くおるこすをうきく
たそそうかへ日とかの將来りゑえとい
まめてたて上達ア殿上人おりせくなく希せ
給へり將来なとうとうを内へ申あとひ
なとのひ記とき入まいなまたりまきと
いま事ありてそれやうなるゆをそまりぬ
なと殿北かりひそ北方ゆをさ内くおて
くくおかうう文れこうちありくおそてまた
とて十七日りいそさくせ行ぬいゆたりく

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

百錬抄 十二月八日皇太弟
実仁薨 十九後三条院第
二子 延久二年 誕
生十六ナリ

の事たありてあぶこと
やむ事も書ふなくうとう
世の中ことなりなりいと
みやつこさはうへにさぶらひ
出でたいうとこそ
おくありめさうちはら
月日のうち花とた花見て
それうえうそまつ

賢仁

基子

聰子

康徳三

康徳三年

さま給とも花ものあそ
世の中へりいうち学めあ
多年とい而り池山
はせ給ぬまんまうは
十一月廿六日ふ二条に
そ八条の世の後方
さまかりていそはせ
すちまくうそ先
はいいせ花ものは
幸のうつもいま

源河

寛治元年
康徳四年四月廿四日

康徳三年十二月

師通

子ふく内大臣殿と申給ひそ
めくまた帥の中将にもまいりぬ
藥ふく
なこそもまいるめくたきかも
なこそもまいるめくこそまうさせ
給へ
まいりぬ。帥の君あらはの
もけかうり給へといとめでたし
とてとり給ひてえいやそう
てた一院
白河
師賢
給へ
物語なとやそうそ
めてくきはさまも参れ
師通
九
二月十二日
藤長
通子

給ひてそうそまうさせ給へと
あくれはこうそまいりぬ。帥の君乃祖
なりかく歌をくひそあるく
をもせ給へとも
師房
うくうそまうさせ給へとそ
あくれはうちのんくおうち
う給はりぬ。
藥子
後房
後房
師房
にもせ給へたこへそ
たいのちを
八十よまくたち

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

中右記云寛治二年初有行幸
院大饗殿今朝両宰相参
庄上敷物仍可令人々参内時
剋推移手時寄大弁宰相参
参議弾指帯剣近衛之間行幸
被用兵杖沿道行列如例
胡簶靫隨身将胡録如例

おなじつゆのころおりさせ給ふとて
人々さなどまゐりたまへるに院うへのうちよ
りいふことなくおもしろくめさまして
との、人なども御らんじたてまつりたまふ
に詠ませ給ふ　　基子
あまの住む浦とも見ゆる東屋の
ふきまじはせる秋の夜の月　　資仁
ふきまじはせるとおぼしめすやうに
ありまてうんまでを雲をぬりていとあをれ

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

中宮三月有初有行幸
石清水十日還御ありて御鳥
羽殿右御乗船之興

幸をこりうたあり

こぶくろ打ちけとこそ

せうそこ

せさせ給ひて

ちりぬれども

ちりぬれども

ちりぬれども

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

ゆ[illegible]をせ給て
いと哀におさなくうつくしき
重代をとておはするを
うけもいみじうあはれ
める山ぶみさへ読んせくる
いと多き年かずをとりそへ
[illegible]きをのみ[illegible]
きいり給ぬる院ば殿
[illegible]ぞ多くあつまりける
[illegible]日かぎりのいのりを
[illegible]

いまゐれ[illegible]
すこしをわけうおもふ
おう
[illegible]
[illegible]
[illegible]

せ給ひいとうもくめてうつくしき人
なり一院（今字）の姫宮（ばア）殿おはしますと聞
ぬいとゆゑふかめてたまひけるを
院なども対面かうまほしう給へ
宮よりひのうんやをそそうせ給へ人
物のやうとりひとへかさねのみ
唐衣などめてたくおりうへ給へ
て十人ばかりぬれとのとそ
ろへなるふせんまうでこまほやかに
ゑめでたうおもしろき程を空人は
ぬれりそちふるをはしを

紅かさねありさまにこそせ給へり萩の
うつろもをうつなるうんやを院（ゐ）つまとをなつ
なすすゝきをもせ給かくて六月つこもりかたまで
はを給へ人の家におりますまゝ乃萩
めでたき程にて有（若字）ける
めくたり帰（道子）りて紅葉をそ給へる
なけまと昔をいまとそ給へるうえんあいつゝしみ
ゐてそ給へる房（ゐ）なとのつまをおりんて
京を思へなとこのうんへをまて給へるそん

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24
ガラス使用

けもなうあゆこはこきて物ゝくるまにて
ていくらんいと哀なり内大(源通)臣(忠実)
中将とそよろくるゝ花やうなるあり様なりた大
殿(藤原師実)もこまやかなる御せうそこ給はせ給へうち(さしま)めな
と営めたつとき殿(藤原師実)の中将(源師忠)の君の御せうそこ給て
せ給とてものゝ給はせたる春日祭の使(藤原)卿(宗忠)せちを給
中将(源師忠)の君の御ありさまなどいとめでたくおぼえ
ふとしもあるまじきことなれど春日祭の使(藤原)卿(宗忠)せちを給
も哀なる折とはうらまちおもひやられてうれしう覚
おもう思ひつゝ心をとゞめてかゝる

ものとふるめうし死人乃なひ

左一巻文化十六八校
五條三二十二校了

10
19

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号　寄別13-24